

NEWS RELEASE

2022年2月4日

日本豆乳協会

SOY2014

日本豆乳協会

2021年（1-12月）における豆乳類の生産量が423,969 kℓを達成
～ コロナ禍において、外食需要が減少する中で、第4四半期は、109,906 kℓ（101.4%）
を記録し、豆乳や豆乳飲料が増加傾向に～

日本豆乳協会（事務局：千代田区二番町 会長：藤村 公苗 キッコーマンソイフーズ株式会社 代表取締役社長、事務局長：杉谷 智博、以下豆乳協会）では、2021年（1-12月）における豆乳市場の動向について検証したところ、豆乳類全体の生産量は423,969 kℓとなりました。

2021年の豆乳生産量においては、1-3月期が前年とほぼ同様の生産量だったのに対し、4-9月の約半年間は、コロナ禍において、外食需要が大きく減少したことに加え、東京五輪等の実施等も後押しし、テレワークが継続・加速したことで、オフィス街を中心とするコンビニでの利用者減も加わり、減少に転じたと分析しています。この10年間の推移を見てみると、豆乳類の中で最も生産量が多い「調製豆乳」は、125,687 kℓ（2011年）から208,244 kℓ（2021年）と約60%増、「豆乳（無調整）」は、35,056 kℓ（2011年）であったのに対し、2021年には122,942 kℓと、この10年間で約3倍となり、調製豆乳の生産量にだんだんと近づくほどに伸長を示しています。生活者への豆乳の飲み方、食べ方、料理などの提案が受け入れられ、日常的に鍋や料理に加え、コーヒーや紅茶等にも気軽に使用するようになってきたことなどが、家庭の中に、豆乳を愛飲する習慣が浸透してきていることを確認しました。また、豆乳飲料の増加傾向から、若年層の愛飲率が増えてきていると推計しており、さらなる拡大を目指していきます。

一方で、2021年10-12月期においては、メーカー各社のプロモーション等の影響で、豆乳の成分に対する生活者の再認識の機会も増加したことも起因し、109,906 kℓ（101.4%）と昨年を上回っています。10-12月期の豆乳類生産量を分類別に見ると、「豆乳（無調整）」の生産量は32,929 kℓ（105.6%）、「調製豆乳」は、53,212 kℓ（98.3%）、「果汁入り豆乳飲料」は、4,184 kℓ（103.5%）、コーヒーや紅茶などの「フレーバー系

の豆乳飲料（その他）」は、15,662 kℓ（107.3%）となり、出荷量においても生産量と同様の傾向を示しました。

豆乳協会では、引き続き、国民一人あたりの豆乳（類）年間飲用消費量を4ℓに増加させ（2020年3.4ℓ / 総人口12,500万人）、年間総生産量を50万kℓにすることを目標に、豆乳に対する人々の理解や関心を高めるため、年間を通じて様々な啓発・啓蒙活動を展開していきます。

（参考）

日本豆乳協会は、豆乳および豆乳製品の普及を第一の目的に様々な啓蒙活動を行っています。昭和54年9月1日に設立して以来、豆乳メーカー各社が会員となり、メーカー同士の親睦や情報交換、さらには他の機関や団体との協調を図っています。豆乳類の製造、加工、品質、流通に関する研究はもちろん、業界の健全な育成、発展に寄与することをミッションに、日々、豆乳の普及や期待される効果・効能の啓蒙活動を展開しています。毎年10月12日を「豆乳の日」と制定し、業界全体が一丸となって豆乳の普及に向けて様々な活動を行っています。

～報道関係の方のお問い合わせ先～

日本豆乳協会 広報担当

（株）VA インターナショナル

田中/岩野

メール：vai@va-intl.co.jp

TEL:03-3499-0016 FAX:03-3499-0017